

成人男性の旅行型レジャー実施者の パッケージ・ライフスタイル

○北村 尚浩（鹿屋体育大学大学院）

川西 正志、菊池 秀夫（鹿屋体育大学）、江橋 慎四郎（中京大学体育学部）

パッケージ・ライフスタイル、旅行型レジャー、リゾート

1. 緒言

人々の余暇意識が高まる中で、旅行型レジャーの需要は増大している。加えて、昭和62年に施行された総合保養地整備法（通称リゾート法）をきっかけとし、旅行型レジャーの矛先となるべきリゾート開発がより一層進められてきている。しかし、そうしたリゾートブームの一方では、各開発地の環境破壊や地価の高騰といった社会問題を引き起こしているのも事実である。また、ユーザーレベルからはデベロップ先行のリゾート地のソフト・ハード開発の画一化が指摘され、この意味からは、リゾートへの人々の多様なニーズに対応することが現状の大きな課題であることは言うまでもない。

従来、マーケティングの分野では、多様化が進む消費者への商品やサービスの予測や開発に有効な手法として、ライフスタイル分析による研究アプローチがよく行われてきている。Perreaultらは、休暇に関するライフスタイル（パッケージ・ライフスタイル：以下「VLS」と略す）の概念を用いて、アメリカ人の旅行型レジャー志向特性を説明している。わが国では人々の旅行型レジャーへの志向が高まる中、当然のことながらそうしたレジャー志向とリゾートへの期待や意識に関する分析も重要である。さらに、こうした人々のVLS特性を明らかにすることは、今後の旅行型レジャーへの多様なニーズを予測する上で、有効な手だてとなるであろう。

2. 目的

本研究は、成人男性の旅行型レジャー実施者のVLSを明らかにすることを目的としている。

3. 方法

1) 調査方法

本研究で対象とした調査サンプルは、東京都に本社を置き機械製造販売とレジャー・サービス業を営むM社の20歳以上の男性社員1183名を対象に、所定の調査用紙を用いて1989年8月から9月にかけて、本社からの郵送法によって実施された。有効回収率は45.4%（N=537）であった。

2) 分析方法

本研究で分析対象とする調査項目は、過去の旅行型レジャー経験とVLSに関する項目（41項目）である。データの分析には因子分析を用い、VLS因子を抽出した。因子の抽出には主因子法を、因子軸の回転にはバリマックス直交回転をそれぞれ用いた。また、旅行型レジャー経験の有無によるVLSパターンの相違を明らかにするため、対象者を経験群と非経験群とに分け、各VLS因子の因子得点を比較した。有意差の検定には、t検定を実施した。

4. 結果及び考察

41のVLSに関する項目について因子分析を施したところ8因子が抽出され、それぞれ「休暇条件への不満・願望」「計画性」「積極的・活動的休暇志向」「家族」「情報収集」「脱日常的な休暇願望」「価値意識」「経済的節約志向」と命名された。

特に、旅行型レジャー経験の有無によって「休暇条件への不満・願望」「計画性」「積極的・活動的休暇志向」「価値意識」の4因子で因子得点に有意な差がみられた。

表1. VLSの因子分析結果

VLS項目(変数)	寄与率(累積寄与率)	バリマックス回転後の因子負荷量										Cronbach's α値
		F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8			
【休暇条件への不満・願望】	14.0 (14.0)											.76
もっと休暇をとりたい		.66	.03	-.11	.06	.01	-.03	.16	-.12			
海外旅行に行きたい		.60	.04	.19	-.00	.24	.03	.10	.06			
思うように休暇がとれるので現在の余暇時間に満足している		-.58	.08	.32	-.01	.10	.02	.06	.04			
日本のレジャー施設は使用料が高すぎる		.56	.01	.07	-.00	-.09	.14	-.18	.27			
短い休暇を何度も取るより長期休暇をとりたい		.56	.16	-.03	.17	-.14	.01	.08	.00			
休暇をとることは大切なことである		.56	-.01	.09	.06	.05	.15	.06	-.09			
見知らぬ土地に旅行してみたい		.55	.11	.11	-.02	.14	.23	.39	-.11			
旅行するのが好きである		.52	.13	.29	.10	.26	.17	.32	-.10			
休暇のために使えるお金が十分でない		.46	.01	-.09	-.03	-.05	.20	-.28	.30			
【計画性】	8.8 (22.7)											.79
休暇の過ごし方について友人によくアドバイスを求める		.02	.81	.17	.04	.10	-.08	.09	.05			
旅行について友人からよく相談を受ける		.09	.78	.15	-.03	.11	-.09	.06	.06			
休暇を何に使うか友人によく相談する		.08	.67	.05	-.16	.26	-.03	-.03	-.05			
グループで旅行する時は率先して計画を立てる		.10	.57	.25	.11	.06	-.09	.17	.06			
定期的に旅行・レジャー雑誌を読む		-.08	.48	-.02	.10	.44	-.10	.26	.11			
旅行前に必ずガイドブックを買う		.09	.34	.01	.24	.28	-.07	.32	-.09			
【積極的・活動的休暇志向】	6.3 (29.0)											.69
休暇をばんやりと過ごすことが多い		-.07	.06	-.70	-.01	-.08	.06	.06	.04			
充実した休暇を送っている		-.19	.20	.69	.08	.05	.06	-.01	.01			
休暇にはいろいろなことをして楽しんでいる		.04	.29	.68	.02	.03	.01	.20	-.01			
休暇は計画的に使う		-.03	.18	.52	.36	.03	-.01	.17	.00			
休暇は家でのおんびりと過ごしたい		-.22	-.04	-.50	.35	-.08	.31	.08	.05			
休暇にはスポーツをして過ごす		.05	.30	.35	.03	-.08	.08	.00	.22			
【家族】	5.2 (34.2)											.83
休暇は家族と過ごしたい		.07	-.02	.03	.87	.05	.10	.00	.05			
休暇は家族のためにとる		.04	.06	-.01	.82	-.02	.05	.01	.11			
家族で旅行するのが好きだ		.17	.05	.18	.72	.17	.03	.02	.05			
【情報収集】	4.2 (38.4)											.58
温泉がブームになったときには温泉へ出かけた		-.11	.28	.06	-.08	.61	.14	-.13	.02			
一ヶ所に滞在するよりもあちこち見て回る旅行が好きだ		.11	.00	.11	.02	.60	.04	.07	.05			
テレビのレジャー番組をよくみる		.08	.13	-.10	.21	.55	-.10	.19	.07			
旅行雑誌で取り上げられた場所によく旅行する		-.11	.31	-.01	-.05	.52	-.07	.04	.11			
パッケージツアーよりも一人旅の方が好きである		.00	.17	-.17	-.12	-.44	.23	.36	-.04			
旅行についての記事や話に興味がある		.18	.25	.28	.09	.38	.08	.26	-.03			
【脱日常的な休暇願望】	4.1 (42.4)											.63
旅行するならば都市よりも風景のよいところを選ぶ		.23	-.06	.09	-.04	.07	.72	.15	.02			
休暇には人里離れた自然の中で過ごしたい		.16	.03	-.06	.02	-.01	.63	.29	.00			
休暇中は大都市やその近郊で過ごしたい		-.07	.29	-.05	-.02	.10	-.60	.03	.11			
休暇はおんびりとリラックスするためのものである		.03	-.04	-.10	.25	-.01	.54	-.13	-.01			
【価値意識】	3.5 (46.0)											.52
休暇を知識・教養を身につけるために使いたい		.13	.18	.14	-.06	.08	.06	.62	.15			
休暇は見知らぬ人と出会うよい機会である		.09	.06	.02	.08	.03	.10	.59	.14			
【経済的節約志向】	3.1 (49.1)											.57
レジャーに対しての出費はできるだけ抑える		-.12	-.00	-.16	.00	.00	.09	-.16	.64			
旅行の際ムダ使いはしない		-.15	-.14	.08	.21	-.03	-.01	.28	.61			
できるだけ安いパッケージツアーを探す		.15	.10	.10	.09	.11	-.14	.00	.58			
たとえ季節外れでも費用が安い時期に旅行に行く		.06	.21	.06	.03	.08	.04	.16	.51			
移動に時間がかかっても安ければ飛行機よりも列車を使う		-.05	-.03	-.07	-.05	.17	-.20	.28	.47			

付記: 本研究は、1989年度(財)日本レクリエーション協会レジャー・レクリエーション研究所助成研究「成人男性のレジャー行動とパッケージ・ライフスタイルに関する研究プロジェクト」の一部である。